厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
（分担研究報告書）

医師の労働時間短縮のための手技に関する検討

研究分担者　掛地　吉弘　神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野　教授

研究要旨
　医師業務の中で、患者への説明・同意書の作成に時間をとられており、特に検査や侵襲的手技についてのものが多かった。汎用性の高い造影CT、上部消化管内視鏡検査、麻酔、輸血、手術について動画資材を作成し、情報伝達効果と労働時間短縮効果を検討した。また、医師の労働時間に対する意識改革も進めて、同意説明に要する時間の短縮も得られている。

A．研究目的

　医師の時間外労働の上限規制が適用される2024年4月に向け、医師労働時間短縮計画を作成する必要がある。医師の労働時間の正確な把握と、医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化が求められる。本研究においては、1. 勤務医の労働時間の実態と働き方に対する意識を把握する、2. 医師業務で時間をとられている患者への説明・同意書の作成を特定・抽出し、動画資材の作成による業務負担軽減を図る、ことを目的とする。

B．研究方法

1. 医師の働き方改革で必要なタスクシフティングにおいて、患者への説明、同意書取得の補助となるような資材の作成（DVD・動画の作成、予診に必要な情報収集のリスト化等）を行った。
2. 資材の作成を行う上で、臨床現場において各医師が説明と同意の取得に要する時間がどの程度要されているのか、アンケート調査内容について検討した。

C．研究結果

1.当科にて作成した患者への手術説明の動画スライドを使用し、患者の理解を高める試みを続けている。「食道がん胸腔鏡下食道亜全摘術」、「胃がん腹腔鏡下幽門側胃切除術」、「直腸がんロボット支援下直腸低位前方切除術」を作成し、委員で共有して評価している。
2. 医師の労働時間に対する意識改革を求め、同意説明に要する時間の短縮を試み、1時間弱かかっていた時間を15～20分程度に短縮することが可能になった。

D．考察

1. 患者および家族に繰り返し説明する基本的な部分について、説明する医師の意識改革が重要で、時間を短縮することに効果的であることもわかった。15～20分を目途に基本的な内容を繰り返し説明することで患者の理解度も上がっている。作成した説明動画も補助的に利用している。
2. 現在の説明と同意の取得に要する時間を引き続き調査・把握し、具体的な改善案を実行してその後の時間短縮効果を確認していく。更なる時間短縮と働き方の効率化を検討し、医療の質を担保した上での、業務の効率化を図っていきたい。

E．結論

　勤務医は過剰な労働時間を強いられており、医師業務の移管や共同化が必要である。患者への説明・同意について、汎用性の高い動画資材の作成で医師業務の負担軽減を図っていく。

G．研究発表

1. 論文発表　なし
2. 学会発表
　外科学会における働き方改革の取り組み、掛地吉弘、第 123 回日本外科学会定期学術集会、2023/4/27-4/29

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　なし
2. 実用新案登録　なし
3. その他　なし